

国際交流員の活動日誌

vol.52



Information

市政だより英語ダイジェスト版を市役所、総合支所、保原駅、梁川駅等で配布しています。

「緑のカーテン」 Green Curtains

来日した最初の夏、私は桑折町に住んでいて、教えていた学校で不思議な物を見ました。窓の外に緑の網がかかっている、その網に色んな植物が住んでいました。緑のカーテンという物で、部屋を涼しくするためにだと教えてもらいました。夏でもエアコンが必要ないほど涼しいシアトル市出身の僕にはよく分かりませんでした。僕にはよく分かりませんが、うちの緑のカーテンが日本の蒸し暑い夏の中で好きなことの一つになって、自

分でも育て始めました。

伊達市に引っ越して本格的に緑のカーテンを作ってみました。つる性の植物の影で室内が涼しくなり、見た目も良かったです。朝日を浴びた部屋の障子に見えた朝顔の影が美しかったです。仕事が向かう時は朝顔が咲いていて、帰宅の時は夕顔が待っていました。やがて緑のカーテンには無断居住の雑草が激増しましたが、部屋がより涼しくなったので許しました。

今年の緑のカーテンは自分の手作り網で育てたいです。去年はひもと植物の分別が大変で「全部まとめて堆肥にできればいいのに」と思いました。今年は堆肥にできる麻ひもで網を作っています。店で買った網の片付けよりも、ひもで網を作る方が時間がかかりますが、そのぶん括り付けが上手になるでしょう！

地域の魅力 ふる里再発見

養蚕技術を普及させた偉人 ～渡邊源兵衛③～

企画展
渡邊源兵衛と養蚕
7/25日⑩まで開催
保原歴史文化資料館



資料①来訪人名簿

伊達市保原歴史文化資料館では、「渡邊源兵衛と養蚕」を7月25日⑩まで開催しています。伊達地方は養蚕業の先進地区として各地から伝習生を受け入れ、桑苗や蚕種の販売や養蚕教師の派遣を行ってきました。渡邊源兵衛もこれらの事業にかかわった一人です。渡邊源兵衛関係の文書は「一条勇家文書」として伊達市保原歴史文化資料館に収蔵・保管されています。この中に興味深い資料があります。資料①は、明治23年（1890）年11月以降の『来訪人名簿』です。全国から多くの人が源兵衛翁を訪ねていたことがわかります。（※翁は明治24年没のため最晩年の記録簿）



資料②田島彌平の名刺

北は北海道・南は鹿児島県まで、農商務省の役人や各府県郡で養蚕業にかかわっている人々が源兵衛翁を訪ねています。この名簿の中に田島彌平という人物がいます。田島彌平は江戸末期から明治中頃に活躍した群馬県伊勢崎市で養蚕・蚕種製造家で、自然のままの温度を重視する自然育・清涼育を確立しました。独自の理論で改築した住居が世界遺産『富岡製糸場と絹産業遺産群』の構成資産リストに登録されているほどの人物も、源兵衛翁を訪ねていたのです。渡邊源兵衛は養蚕に対するさまざまな工夫・研究を重ねた人物であり、全国から教えを請う人が絶えない全国屈指の養蚕家であったことがうかがえます。